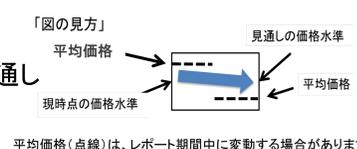


野菜の需給・価格動向レポート（平成30年2月26日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	1月の価格情報		2月の価格情報		2月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量（t）内は、本年と過去3カ年平均値との比率	2月の主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額						
葉菜類	キャベツ	96.86	146 (150%)	96.86	206 (213%)	233 (241%)	5,847t (72%)	愛知(58), 千葉(23)	→	愛知産は、1月以降の低温による生育遅れに加え、前倒し出荷で小玉の割合が多いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の天候不順や12月以降の低温による生育遅れに加え、早採りによる小玉の出荷割合が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		92.10	157 (171%)	92.10	201 (218%)	235 (255%)	1,939t (61%)			
	たまねぎ	83.77	98 (117%)	83.77	102 (122%)	105 (126%)	6,011t (85%)	北海道(83), 静岡(14)	→	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、低温による肥大遅れはみられるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		83.77	96 (115%)	83.77	101 (120%)	99 (118%)	2,890t (103%)	北海道(80)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	127.15	334 (263%)	127.15	387 (305%)	381 (299%)	1,641t (88%)	千葉(42), 埼玉(26)	→	千葉産は、降雪や低温による影響で細ものが多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、昨秋の天候不順による影響で下級品の割合が多いものの春作の出荷も始まることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		473.04	836 (177%)	473.04	941 (199%)	973 (206%)	95t (58%)	徳島(35), 奈良(14), 高知(12), 香川(10)		
	はくさい	64.18	130 (202%)	64.18	142 (221%)	135 (211%)	4,513t (99%)	茨城(72)	→	茨城産は、低温により小玉傾向となっており、現在の秋冬作のほ場の残量も少ないことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		68.70	149 (217%)	68.70	161 (234%)	174 (253%)	2,010t (86%)	愛知(23), 兵庫(17), 宮崎(15), 長崎(15)		
	ほうれんそう	338.43	722 (213%)	338.43	729 (216%)	589 (174%)	924t (102%)	茨城(27), 群馬(27), 千葉(18)	↘	群馬産及び千葉産は、昨秋の台風後に播種したほ場からの出荷が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、昨秋の台風後に播種したほ場からの出荷が順調なことから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。
		375.38	695 (185%)	375.38	776 (207%)	716 (191%)	226t (71%)	徳島(38), 福岡(28), 群馬(11)		
	レタス (結球)	233.85	285 (122%)	233.85	346 (148%)	330 (141%)	2,086t (78%)	静岡(27), 茨城(21), 香川(12), 兵庫(7)	→	静岡産は、昨秋の台風後に定植したほ場からの出荷が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、11月以降の低温により、生育遅れがみられるものの、遅れていた2月上旬予定分の出荷が見込まれることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。香川産は、12月以降の低温による生育遅れがみられることから、引き続きやや少なめの出荷の見込み。
		226.75	295 (130%)	226.75	349 (154%)	341 (151%)	488t (68%)	兵庫(43), 徳島(21), 長崎(11)		
果菜類	きゅうり	370.98	447 (120%)	370.98	398 (107%)	323 (87%)	3,245t (107%)	宮崎(28), 千葉(19), 群馬(17), 高知(15)	→	宮崎産は、12月以降の低温の影響で生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、2月以降の好天で、生育は概ね順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、2月以降の低温の影響が懸念されるものの、概ね生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		350.33	427 (122%)	350.33	385 (110%)	318 (91%)	1,012t (93%)	宮崎(39), 高知(23), 徳島(18)		
	トマト (大玉)	349.23	303 (87%)	349.23	313 (90%)	343 (98%)	2,692t (91%)	熊本(33), 栃木(20), 愛知(12)	→	熊本産は、低温による着色不足も回復し、生育も概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、2月以降の好天により、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、低温が続いているものの、玉肥大や着色への影響は軽微であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		326.61	292 (89%)	326.61	295 (90%)	329 (101%)	979t (91%)	熊本(74)		
	なす	389.03	436 (112%)	389.03	452 (116%)	450 (116%)	738t (85%)	高知(66), 福岡(16)	→	高知産は、2月中旬の曇天の影響で花飛びがみられることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年より少なめの出荷の見込み。福岡産は、12月以降の低温及び曇天による影響で花飛びがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		397.74	423 (106%)	397.74	436 (110%)	432 (109%)	292t (87%)	高知(44), 熊本(24), 福岡(18)		
ピーマン	578.80	719 (124%)	578.80	743 (128%)	731 (126%)	753t (109%)	宮崎(40), 茨城(21), 高知(20)	→	宮崎産は、2月の好天で生育が回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、低温の影響はみられず、春作の生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	565.30	681 (121%)	565.30	711 (126%)	698 (123%)	333t (104%)	宮崎(49), 高知(26)			宮崎産、茨城産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
根菜類	だいこん	79.03	143 (181%)	79.03	151 (191%)	162 (205%)	3,901t (78%)	神奈川(56), 千葉(35)	→	神奈川産は、昨秋の天候不順や1月以降の低温により、依然として生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、露地作、トンネル作とも、昨秋の天候不順や1月以降の低温により、肥大が鈍く細もの出荷が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		80.47	121 (150%)	80.47	145 (181%)	157 (195%)	2,136t (72%)	長崎(35), 鹿児島(27), 徳島(24)		
	にんじん	111.16	154 (139%)	111.16	168 (151%)	167 (150%)	3,454t (102%)	千葉(82)	→	千葉産は、昨秋の天候不順、10月以降の低温や干ばつ傾向により肥大不足で、細ものでの出荷となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
109.97		154 (140%)	109.97	178 (162%)	186 (170%)	699t (73%)	鹿児島(72)	千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれ、また、次産地の徳島産の出荷開始も遅れると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		



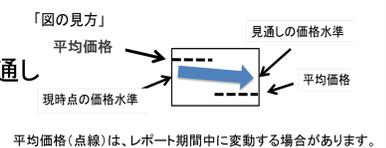
平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	1月の価格情報		2月の価格情報		2月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	2月の主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格				
いも類	さといも	228.85	289	228.85	285	300	埼玉(42), 千葉(37)	→
		(126%)		(124%)	(131%)	・156t (69%)		
	ばれいしょ	219.65	245	219.65	267	295	愛媛(51), 宮崎(16), 熊本(10)	→
		(111%)		(122%)	(134%)	・68t (104%)		
		96.99	109	96.99	111	117	北海道(76)	→
		(113%)		(114%)	(121%)	・3,092t (100%)		
		96.99	106	96.99	106	116	北海道(69), 鹿児島(26)	→
		(109%)		(110%)	(120%)	・1,482t (107%)		

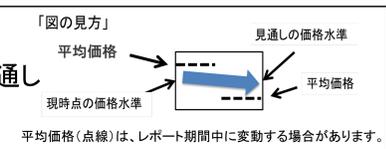


平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。  
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	1月の価格情報		2月の価格情報		2月中旬の東京都・大阪市場の入荷量( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	2月の主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し		
	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別平均価格	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別平均価格					
洋菜類	ブロッコリー	307.40	523	274.14	682	590	愛知(37), 香川(24), 埼玉(11)	→	
		(170%)		(249%)	(215%)	・426t (72%)			
		417.58	568	367.08	732	624	徳島(34), 香川(12), 熊本(9), 和歌山(8), 長崎(7)	→	
		(136%)		(199%)	(170%)	・111t (62%)			
根菜類	ごぼう	335.74	360	322.96	389	400	青森(57), 茨城(16)	→	
		(107%)		(120%)	(124%)	・214t (77%)			
			188.58	246	196.38	233	265	茨城(51), 青森(12), 中国(11)	→
			(130%)		(119%)	(135%)	・178t (86%)		
かぶ		152.30	196	141.29	206	215	千葉(91)	→	
		(129%)		(146%)	(152%)	・270t (76%)			
		137.79	241	140.01	209	231	徳島(50), 福岡(30)	→	
		(175%)		(149%)	(165%)	・40t (76%)			



平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成25~29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック - はくさいの需給動向について -

今回は鍋物など寒い時期の食材として重宝されるはくさいを紹介する。

**日本への伝来**  
 日本にははくさいが持ち込まれた時期は、明治初期(明治8年)と意外に新しく、大正時代には全国に普及した。漬物としてたくさん食べられていたが、近年は家庭での漬物を作る機会が減ってきており、最近では生産量の6割以上がキムチ等の漬物を含む加工・業務用として消費されている。

**主な特徴**  
 はくさいには大きく分けて結球タイプ、半結球タイプ、非結球タイプがあるが、現在日本で流通しているのはほとんど結球タイプである。はくさいの内側が黄色い色をした苺芯系(円筒型)と呼ばれる品種が主流となっている。

**生産状況等**  
 「野菜生産出荷統計」によると、平成19年に1万9000ヘクタールあった作付面積は、平成28年には1万7000ヘクタールと徐々に減少している。他方、出荷量は直近10年では平成26年の73万7000トンと最も多いが、いずれの年も70万トンを超えており、単収の向上により出荷量は維持している(図1)。28年の産地別出荷量では最も多いのが茨城県の22万4400トンで全国の31%を占めている。2番目が長野県の19万8200トン(同28%)となっている(図2)。東京都中央卸売市場における平成28年の入荷量は、秋から冬にかけて多くなり、10月が1万8000トンと最も多くなっている(図3)。「日本貿易統計」によると、生鮮はくさいの輸入量は直近10年のうち平成28年が2062トン、平成29年が2562トンと増加した。国内産の不作の影響から国内価格が上昇し、加工・業務用に増加したものみられる。

図1 はくさいの作付面積と出荷量

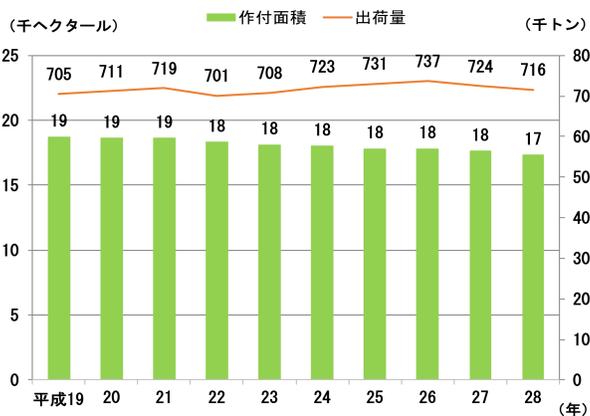


図2 はくさいの産地別出荷量(平成28年)

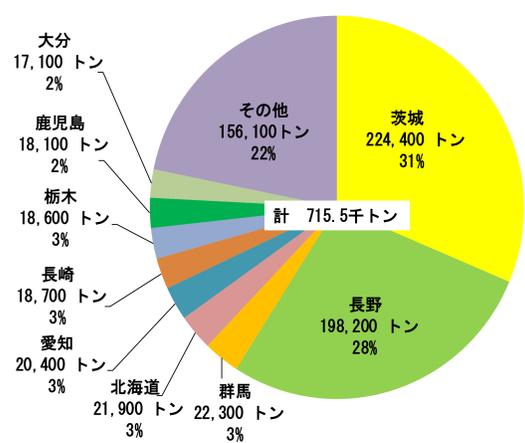


図3 はくさいの平成28年月別入荷量(東京都中央卸売市場)

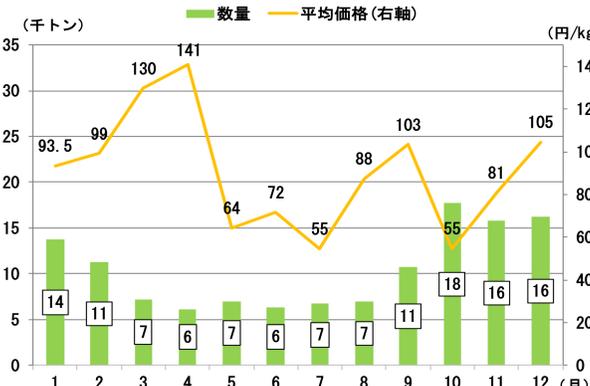
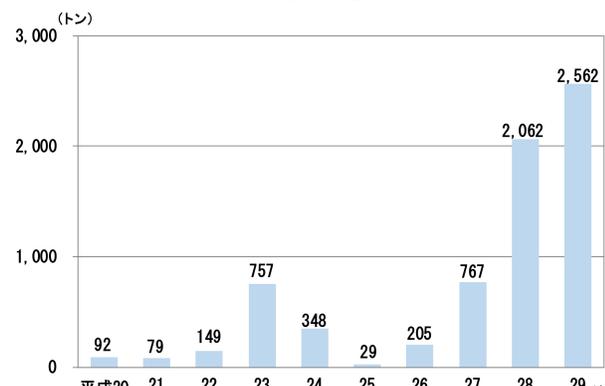


図4 生鮮はくさいの輸入



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料: 図1、図2 農林水産省「野菜生産出荷統計」 図3 東京都中央卸売市場「市場統計情報月報」 図4 財務省「日本貿易統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。  
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable\_report.htmlに掲載しています。  
 ※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。